岳精流日本吟院

ちよだ

第　５　４　号

平　成　２　８　年　５　月

千　代　田　岳　精　会　弘　報

平成廿八年岳精流指標

気を養う

三十周年　ますます向上へ！

会長　鈴木　精成

今年の東郷記念館は、目にも眩しい深緑一杯のたたずまいでした。

平成二十八年度「千代田岳精会昇伝審査会」がこのような背景のもと厳粛な中にも活気漲る雰囲気でスタートしました。一年一回のチャンスに挑む会員皆様の真剣な様子に、会場周辺がピーンとした緊張感に包まれていました。

今年の審査は、二〇七名が受審し、うち初受審者が三十六名でした。

審査は、九年ぶりの横山精真宗家、八年ぶりの深浦精正三河岳精会長・副幹事長、初ご担当の秋山精正品川支部長・副幹事長のお三方の先生にお願い致しました。

何時ものことながら、先生お一方、七十人の審査、ご指導をお願いすることになり、先生方のお疲れもさぞやとお察しし、感謝申し上げる次第です。先生方のご指導は極めて懇切で、示唆に富んだ内容であり、皆さんのこれからの吟精進に力強い励ましを戴けたものと確信しています。何時ものことながら、審査会後の皆さんの取り組み姿勢が自信に溢れる感じがいたします。嬉しいことです。来る六月十九日（日）には平成二十八年「全国吟道大会」が開催され、我が千代田からは二四六名という過去最多数の会員の参加が予定されています。流統挙げての年間最大イベントに多数の仲間と相集うことの心強さをしみじみと感じます。

さて、今年も五か月を経過いたしました。この間通常の教場活動が順調に展開されていることは申すまでもありませんが、これに加えて会横断の諸研修や自主研修会が積極的に行われてきております。「初級研修会」「中堅層研修会」「有伝層研修会」がそれぞれ第一回目を終えています。これらの研修会への参加状況をみますと、対象の方々の八割位の皆さんの参加があり、真摯な研修を通じてその実を挙げていることは注目されます。一方、自主研修会の方も活動が活発です。参考までにその開催内容を確認しますと左記のとおりです。（何れも自由参加で勿論無料）

■詩歌研修・・・原則として
　毎月第四水曜日　午後三時から二時間

■演奏研修（コンダクター）・・・原則として
　毎月第四水曜日　午後五時から二時間

■剣詩舞研修・・・原則として毎月
　第一・第三月曜日　午後二時から二時間

■自作（俳句）自詠研修・・・原則として
　毎月第二火曜日　午後二時から二時間

■千吟会・・・原則として
　毎月第四火曜日　午前十一時から二時間

右に加えて今年からスタート

■漢詩を作る会・・・原則として
　毎月第一木曜日　午後二時から二時間

「研修会」も「自主研修会」も、平素の教場での吟練習をより一層広く、深く補っていくものと思います。まさに”研修の千代田“として誇れるものと確信しています。皆さんの積極的参加をお薦めします。

過日、入会八年目のＭさんが長期の入院治療から復帰されました。開口一番、「四回の手術で麻酔治療に耐えられたのは、詩吟で腹筋を鍛えたお陰です」と力強く語っておられました。嬉しい限りです。

「千代田創立三十周年」への準備、いよいよ本格化！いざゴーです。

春の昇伝審査
若葉萌え立つ水交会で開催

各会単位で実施される昇伝審査は、六段までの会員が対象です。受審者が多いということは、その会に新しい人が多いという証です。

今年は二〇七名の会員が受審して、四月二十四日原宿の東郷記念館一階の水交会で開催されました。ご存知の通り、ここは旧日本海軍の聖地「東郷神社」の敷地内にあり、若者たちで賑わう竹下通りから道一筋の近接地ですが、閑静な佇まいの庭園の池の辺りは新郎新婦の記念写真撮影の姿が眺められ、館内には東郷元帥、山本元帥などの遺品なども展示されています。

今年の審査には横山精真宗家、深浦精正三河岳精会長・副幹事長、秋山精正品川支部長・副幹事長をお迎えして薄曇りのなかで三会場に分かれて開催されました。先生お一方で七十名前後の審査でしたが、緊張のなか力一杯に吟ずる会員に先生方も熱のこもった審査と丁寧なご指導を戴きました。終了後の講評では、吟歴の新しい会員の高い評価と、会のパワーが感じられたとの言葉がありました。

審査の先生、長時間の審査ありがとうございました。担当の許証部門、教場ごとに司会、伴奏、記録を担当した皆様ご苦労さまでした。

今年から当日受審できなかった場合、後日の追試は無くなりました。重要な予定があった人、直前になって急な事態が生じた人など数名が受審できず、来年を期すことになっています。年間計画をもとに、早めに当日受審を調整するよう教場での指導を心掛けて下さい。

中伝合格者　十四名

丸の内支部	板橋　櫻山
	本田　親山
	古屋　利山
鎌倉	犬飼　嘉山
	源関　常山
ハザマ支部	横山　秀山
	伊藤　環山
我孫子	岩瀬　碧山
	佐藤　一山
	太郎田隆山
新宿支部	升川　藍山
	小椋　紹山
	川辺　掬山
	石坂　桂山

上級合格者　一名

東陽町支部	小林　晴洋

初伝合格者　二十九名

丸の内支部	鎌田　秋泉
	下條　信泉
	石倉　美泉
日暮里	権藤　紘泉
	和田　良泉
鎌倉	西村　榮泉
桜が丘	清流
	東陽町支部
	銀座
	神楽坂
調布	
中野	
逗葉	
神田	
ハザマ支部	
新宿支部	
新宿第三	

内藤　悦泉
上村　香泉
黒澤　勇泉
伊藤　雄泉
清水　花泉
袖井　孝泉
小林　照泉
大木　博泉
塩月　崇泉
吹田　翠泉
宮野　信泉
市倉　妙泉
松本　篤泉
北原　劒泉
平井　武泉
小浦場伯泉
神田　恒泉
古谷　嘉泉
乙訓　稜泉
細田　和泉
林　實泉
広瀬　渓泉
吉田　哲泉

「泉」を頂きました

日暮里　石倉　美泉

中途半端な器用貧乏だと自負しております。その私が四度目の昇伝審査を経て、名前の一字をとった雅号「美泉」を今回頂きました。

「睦」は変だし「美」は絶対使いたくないと迷っていた時、山口隆風先生がこれにしなさいと薦めて下さいました。名は体を表すと言います。有難く思う反面、これでは名前負けするという困惑と気恥かしさで今は一杯です。

極度のあがり症を抱える私は、教室での独吟でさえ慣れずにいます。人前で吟ずるなどもってのほか、声を出すことが精一杯で緊張からくる震えに毎回襲われ不甲斐ない思いを味わいます。深呼吸をしても、程々の器用さをもってしても心が落ち着くことはありません。私の動揺や困惑、また失敗などは無限の宇宙からしてみればその塵にも及ばないものですが、どうにもならないことを宇宙の仕業にして嘆き誤魔化す現状です。平常心を保つ手段も是非教えて頂きたいと思います。

私の生涯学習・吟は課題満載ですが、あくまでも粋な趣味として教場の先輩方との交流を長く続けながら、これからの楽しみと豊かな時間を見出したいということに辿り着きました。この出会いを幸運として、自信を徐々につけていければと願っております。

頂いた雅号を大切に、自分で自分を励ましながら身の丈に合った学習と挑戦をしてまいります。

初伝審査を受審して

東陽町支部　伊藤　雄泉

会社の先輩に誘われて平成二十四年三月に入会しましたが、今振り返るとアッという間の四年間でした。それまで詩吟は噂に聞く程度で実際に聴いたことはなく、若い時に漢文で李白や杜甫についてはある程度知っている位でした。

初めて教場で教場長の吟詠を聴き、伸びのある若々しい声にびっくりしたことを覚えています。なぜ張りのある声が出るのか、それを知りたいと思ったことが入会した一つの理由だと思っています。それからは先輩に言われた「大きな声で吟ずるように」を心掛けて練習してきました。教場に通って一年経ち二年経ちするうちに少しずつ声が出るようになったのかなと思います。声を出すうちに詩のどの部分で感情を込めるのか、長く伸ばすのか、短くするのかがあるということが分かってきましたが少しも出来ません。やはり素読五百回との教えの通り何度も発声して詩を理解することが大切だと思いました。

今まで練習してきた中で特に好きな吟題は「**早に白帝城を発す**」と「**登高**」です。時々浜辺で独吟していますが気持ちがすっきりします。声を出すと体に良いと聞きますが実感しています。

入会時はただ大声で吟ずれば良いと思っていましたが、詩を理解し頭で絵を描けるようになるには、まだまだ超えなければならない山や谷が沢山あると思います。これからも先生や諸先輩に教えられたことを肝に銘じてこの道を歩いて行きたいと思っています。

雅号「泉」を拝受して

ハザマ支部　神田　恒泉

千代田岳精会・ハザマ支部教場に入会して三年四箇月、四度の昇伝審査の日を迎えました。

初伝指定吟題「**湖上に飲す**」を宗家の前で吟詠しました。緊張のあまり詩情を込めて吟ずることも出来ず、コンダクターの音さえ耳に入らない様でした。ともかく無事？に終えました。宗家からは有り難い注意の講評を頂きました。確り心に刻み吟じて行きたいと思います。

初伝の雅号「泉」を拝受しました。嬉しいです。詩吟を習い始めて一時は思うように吟じられず、駄目なのか大変悩みました。鈴木会長、萩原教場長はじめ教場の皆様方に温かい励ましのお言葉をかけて頂き今日まで続けてこられましたことを深く感謝致します。

月曜会、詩歌研修会等にも参加して漢詩を学び理解し詩情豊かに吟じられるよう精進し、楽しむ心も持って続けて参りたく思います。

「**真善美**」の精神を忠実に守って！

発声の支点は常に丹田

神田　北原　剱泉

入会四年目になりましたが、まだまだ思い通りに吟ずることの難しさに直面して中々前に進め

ません。月三回の稽古には優先して出席するようにしております。教場長、先輩方の細かなアドバイスを受け、この度日頃の稽古のお蔭で初伝雅号を受けることが出来ました。

審査当日、深浦先生が受審者に講評の際に言われた言葉に**①攻めの吟、②発声の支点は常に丹田の位置に、③発声は口先ではなく体内から吐き出す気持ちで吟ずる**、がありました。これ等の要点を再認識し、日頃の稽古に生かそうと思いました。

また、吟詠の素材となる詩歌の殆どは自然の摂理、人生の真理などを詠じている。これらの詩歌は遠い昔に詠まれたものであってもその内容は決して古さを感じさせない、それどころか現代を生きる私達の格好の清涼剤となり、喜怒哀楽の良き伴侶ともなる要素を持っている。詩吟が人生の友と言われる所以がここにあると思うからこそ、これからも続けてまいります。

古希を迎え、吟の極致には程遠いが少しでも近づくよう体力、気力を養い研鑽を続けたく思います。

八名揃って受審

清流　黒澤　勇泉

入会して早や四年、教場では長老組の筆頭になりました。我が清流教場は菅原龍琴教場長を中心に常に明るく真面目で結束の固いことを誇りとしております。

此度は初伝審査の機会を与えて頂き、感謝しております。快晴の四月二十四日、ＪＲ原宿駅で総勢八名が待ち合わせ国際色豊かな満員の竹下通を懸命に歩いて、会場の東郷記念館へ向かい、緑一杯の庭園が心を和ませてくれる審査会場に入室しました。

審査員は愛知県からお見えの深浦精正先生、隣席には先輩でもある岩崎精慶先生が陪席として座られ、いよいよ審査が開始されました。

緊張と自信の無さから、指名された時は一か八かの心境で、三分で全てが終わると言い聞かせ吟じました。吟は基本通り正確に吟じなければ良い結果は絶対に出ません。カラオケでは高得点を出すには機械の癖を見抜いて歌詞の最後を長く伸ばすようにとか大きな違いがあります。

一人ひとりの吟について深浦先生の素晴らしい講評に感動いたしました。無事審査が終了し、全員で反省会を済ませて家路に就きました。

最後になりますが、深浦先生の誠に有難いご指導に感謝いたします。

初伝昇格に当たり

日暮里　権藤　紘泉

去る四月二十四日（日）昇伝審査が行われこの度初伝に昇格、生まれて初めての雅号「泉」を頂くことになりました。雅号と共に岳精流を学ぶことへの誇りと責任も頂いたような気がしております。まだまだ吟は未熟ですが、少しでも上達するよう焦らず精進したいと思っております。

私、実は過去に丸の内教場に入会させて頂きましたが仕事の都合で退会し、二年前に日暮里教場に再入会させて頂きました。日暮里教場は来年で開設十周年を迎えます。所属会員数も十名とこれから発展する教場です。初伝昇格を期に教場の発展と一層の活性化に向けて、少しでもお役に立てればと思っております。

最後に「与えられた今に感謝し、吟ずることが出来ることに感謝しよう」（宗家の四月のことば）なかなかこのような気持ちにまで達観は出来ませんが、沢山の吟友と共に楽しみ、そして精進して参りたいと思っております。これからも宜しくご指導ください。

初伝審査を受けて

ハザマ支部　小浦場　伯泉

四年前の四月下旬、まだ入会見習いの頃でしたが「昇伝審査を見に来ないか」との教場の先輩のお誘いを受け、会場に初めて来させて頂きました。その時は、東郷記念館と東郷会館を勘違いして、ぎりぎりに会場に到着し、冷汗をかいた思い出があります。早いもので、それから四年の月日が経ち、今回初伝の審査を受けさせて頂けることになりました。

九年ぶりに宗家先生をお迎えしての審査ということで、多少の緊張の下、指定吟である**「武関に宿る」**李渉作を吟じました。宗家からは、姿勢等細かな注意事項を頂き、まだまだ自分の未熟さを痛感しております。

私が最初に教場で遥かに年上の諸先輩の吟を

聴いた時、その声の大きさと若々しさに吃驚した記憶があります。また最初に教わった吟が「**春夜**」蘇軾作でした。今回指定吟題の一つに同じ作者の「**湖上に飲す**」があり、始めた頃を懐かしく想い出します。

初めて雅号を頂けるワクワク感とともに、これからも初心を忘れずに千代田岳精会とハザマ教場の良き伝統を大切にし、諸先輩を見習って更に上を目指し、詩吟を一生の趣味として取組んで行きたいと思います。

伝統文化に憧れて

銀座　清水　花泉

詩吟を学び始めて三年八か月になります。この度初伝に合格させて頂き誠に有難うございます。

日本の伝統文化を身につけたいと思っていましたところ、本荘麗風さんにご紹介頂き全国吟道大会で堂々とした吟の世界を知りました。「**礼節**」を重んじ「**真善美**」の精神を吟で体現させている岳精会にご縁を頂き、渋谷先生はじめ多くの先生方や諸先輩より、お心こもるご指導を頂いておりますことに心から感謝申し上げます。更に先人の遺した詩歌に触れ、日常生活においても自然を感じる心や、人との出会いに豊かさや幅が生まれている様に思われ、喜んでおります。

今は力強い発声の為に、正しい呼吸や姿勢を意識して基本を確り習得したいと思っております。そしていつかは憧れの詩情豊かな吟詠が出来るようになりたいと夢見ています。道はとても遠いようですが一歩一歩精進したいと思います。

どうぞ今後ともご指導の程、宜しくお願いいたします。

初伝審査を経て

神楽坂　袖井　孝泉

詩吟を始めて三年余り、雅号を頂くまでになったことに自分自身驚いております。

これまでは自分の好きな吟を選ぶことができましたので、なるべく覚えやすい五言絶句を選んでいました。しかし今回は指定吟のうえに、二つの内のどちらが指定されるか判らないので、ドキドキでした。

審査して下さったのは、三河岳精会長の深浦精正先生。厳しくも温かいご指導に感謝いたします。三河岳精会のホームページはとても良く出来ていますので、これまでにも解説を準備するために、度々利用させて頂きました。

もともと詩吟にはあまり関心がなかったのですが、足の不自由な夫の付き添いで教場に顔を出すうちに、耳塚昇風先生に勧められて始めたのがきっかけでした。初めのうちは休みも多く、家でもろくに練習しませんでしたが、何とか続けることができたのは、耳塚先生のおだて上手と勝村教場長の細やかな心配り、そして神楽坂教場の仲間の皆様たちの温かい励ましのお陰です。

最近ではコンダクターも始めましたので、時々は教場で伴奏をさせて頂くようになりました。こうして少しずつ詩吟の面白さにはまりつつあります。

家元をはじめとして、詩吟をなさっている方にはかなりの高齢者がいらっしゃいます。老年学の研究者としては詩吟と健康長寿の関係にも大いに関心があります。

初伝審査を受審して

桜ケ丘　西村　榮泉

平成二十八年度昇伝審査で初伝に合格し、八六歳にしてようやく雅号「泉」を頂くことになりました。

幼い頃は軍人だった父と何時も風呂に入っていましたが、父は必ず詩吟をうなり始めました。レパートリーは「**爾霊山**」「**金州城外の作**」「**凱旋**」「**城山**」「**富士山**」等で乃木希典の詩が多かったように記憶しています。

祖父は長洲出身の軍人で乃木大将と親しかったので、父は乃木大将の薫陶を受けていたようです。大将の次男保典と父は陸士十五期の同期でしたから、父の詩吟は幼年学校や士官学校で習った

ものと思われます。父は漢詩を作ったり、吟じたりしていましたが、子供達に詩吟を教えようとはしませんでした。

戦後は詩吟とは全く縁がなく、六十数年経過しましたが、ふとした縁で神楽坂教場に通うようになり、平成二十六年に二段を頂きました。その後再就職したため暫く休会し、昨年から桜ケ丘教場にお世話になって、ようやく今回初伝に合格したような次第です。これも諸先生のご指導の賜と心から感謝しております。

八十六歳といえば、いつお迎えが来てもおかしくない年齢ですが「吟の道に近道なし…」声の出る限り、上を目指して精進して行こうと思っております。宜しくご指導の程お願い申し上げます。

初めて雅号「泉」を戴く喜び

神田　平井　武泉

今年の初伝審査に無事合格し、初めて雅号「泉」を戴くことになりました。嬉しさをひしひしと感じております。段々と上の雅号を戴く時よりも、初めての時の方が、嬉しいに違いないと勝手に思っております。今の心境は、これで本格的に詩吟に取り組むぞという覚悟を持ってスタートラインに立った気持ちです。

七十二歳で仕事を辞め今後のコミュニケーションの場の一つとしてカラオケ教室にでも入ろうかと思ったのですが、満員で断られました。それでは次に民謡でもと考えました。詩吟は全く念頭にありませんでした。

丁度その矢先、平成二十四年九月だったと思いますが、会社の先輩から電話があり詩吟を始めたとのこと、そしてその大会が十月に私の住まいの近くの荻窪の杉並公会堂であるので応援に来て欲しいと言われ、参加しました。漠然と漢詩に興味を持っていたこともあり、吟詠も良いものだなと感じました。その場での先生方の熱心な勧誘、二時間のご指導で千円という手頃さ・・・いつの間にか打ち上げ会にも参加してただ酒を飲んでおり、それやこれやで入らざるを得ないと考え、まあ二～三年詩吟なるものをやってみるかと軽い気持ちで即入会しました。その後、興味が膨らんできて今日まで続いております。

私の場合、一に皆様との飲食・歓談。二に吟の勉強という感じです。はっきり言える事は詩吟の皆様は人間的レベルが高く、お付合いしていて為になり、楽しいということです。このことが今も詩吟を続けている最大の理由です。

初伝審査を受けて

新宿第三　広瀬　渓泉

マラソン選手に例えれば周回遅れの選手のように、晩熟の晩熟。詩吟を意識し始めたのは、七十三歳を過ぎてからでした。

「ふるさとの新聞」で、生家の近くの姉弟が長野県吟剣詩舞大会青少年部に揃って出場した記事にすごく刺激を受けました。

私の同級生に聞いてみると「中学生の頃、うちの母も詩吟をやっていたよ」と言う話を聞くにつけ、調べてみると「信州飯田岳風会」は昭和初期から続いている詩吟の会で現在に至っているから、私にとっては詩吟と縁が近い環境に育ったと言えます。千代田岳精会には、平成二十四年十月、新宿第一教場を創った高校同期の故酒井龍帆先生に入門しました。

私は若い頃カラオケには多少自惚れがあった所為か、いざ詩吟の発声をしてみると「声が出ない」・・周りの年季を積んだ諸先輩の詩吟を聴くにつけ、これは時間がかかると感じました。

私の練習場所としては、近くの多摩川の河川敷へ行けばいくら大声を出しても誰にも迷惑はかからない場所がありながら、怠慢にもすぐ次の日、次の日と延ばしてしまう。その結果として、中学の同級生から「お前の詩吟は怒鳴り吟だ」との不評を買う始末・・・。これからは名誉挽回のため、素読を繰り返して行い、腹式呼吸の発声法を徹底して感情移入の出来る吟じ方で「オー、聴けるではないか」と言われるように努力し、八十路に向かって、健康増進と老化防止を兼ね合わせて一層の吟力向上に精進して行きたいと考えます。

昇伝審査を終えて

新宿第三　細田　和泉

昇伝審査三回目で初伝を頂きました。今までは練習してきた通りに吟ずれば良いのだ

と言うことであまり緊張もせずに受けてきました。ところが今回は審査して下さる方が宗家だとお聞きしまして頭の先からつま先まで緊張しました。吟そのものよりも髪型、姿勢、手の形、着物の格、着姿等に落ち度の無いようにと、そちらの方に気を使ってしまいました。

着物は人間国宝の故中村勇二郎さんの型紙「平等院」。これは緑色の無地の中に平等院の鐘が細かく染められている江戸小紋です。初めて雅号を頂くのにふさわしいと思って決めました。

吟は「**湖上に飲す**」でした。緊張のあまり結句の「**・・淡粧・・**」が出て来ず、宗家に教えて頂きましたが最後に「合格です」と言って頂いて、確認印を押して頂いたような嬉しい気分になりました。（今までに不合格になった方はいなかったようですが）

雅号を頂いたからには自信を持って吟ずることが出来るように練習をしたいと思っています。

初伝の昇伝審査を受けて

神田　松本　篤泉

四月二十四日に初伝の昇伝審査を受けて、初めての雅号を頂く事になりました。

私は平成二十四年八月に神田教場に入会し、早いもので三年九か月経過いたしました。現在の心境は詩吟の「奥の深さ」と「楽しみ」を日々感じながら勉強をしております。毎月三回の神田教場は、池田康風教場長のご指導で十四～五名の会員の皆様で毎回一回順番がくる程度です。

平成二十七年十一月には、武道館の「全国合吟コンクール」に千代田の一員として出場させて頂きまして、吟の勉強と共に千代田の一員であることを改めて認識いたしました。また同じ十一月に「伊豆下田吟行会」にも参加して、千代田の皆様と吟の勉強と共に交流懇親が出来たことも楽しい思い出となりました。

私は若輩未熟者ですので千代田岳精会の中で神田教場の他にも月曜会、千吟会、詩歌研修会等の勉強会に出来るだけ参加出席して、岳精流統の勉強を楽しみながら、継続努力したいと思っております。そして幅広く詩吟の勉強をすると共に、詩歌研修会でも勉強した中国や日本の吟の舞台（現場）を訪ねる旅をして楽しむことが出来ればと思っております。

雅号「泉」を頂いて

中野　宮野　信泉

四月に初伝審査を受審し、雅号「泉」を頂きました。「**武関に宿る**」を何とか吟じ終え、秋山先生から良く勉強しているとの言葉を頂き素直に嬉しかったです。

平成二十四年十一月に入会してから、今思えば色んな事がありました。特に一年前から高い音が出なくなり、自分で吟じていても何だかおかしく思っていた頃、武道館で全国合吟大会の練習に参加させて頂くことになり、そこで半年近く女性だけでの練習で高い音も出るようになって今では普通に吟じられるようになりました。

これから、もっと自信を持って吟じられるよう諸先生方の教えを聞き、吟の仲間達と一緒に学んで「泉」の雅号に恥じぬように励みたいと思っています。

初伝審査に臨んで

新宿第三　吉田　哲泉

故酒井龍帆先生（高校の同期生）から強くお誘い頂いて、新宿第三教場開設の一員として入会させて頂きました。

人前で歌うことに恐れを感じ、カラオケでも決してマイクを持つことのなかった私ですから、詩吟は遠い遠い存在と感じていました。しかし、自分の音域で精一杯の発声が出来る心地よさを知り、苦手と感じていた漢詩もその情景が浮かんでくるのを感じ、先生方の美しく心に響く吟に感動し、教場の人達との楽しい交流があり等々・・・私の心の中で詩吟の世界がどんどん大きくなって参りました。

日頃の努力不足のせいか、今もって腹式呼吸が体得出来ていません。自分の声の力不足にいら立ちを感じながら素読を繰り返し、範吟を繰り返し、

繰り返し聴き、先生のご指導を何回も頂いて審査に臨みました。

当日、宗家横山先生は「とても素直な吟でした」と評して下さいました。私にとりましては、とても抽象的でどう判断したら良いのか、果たして「泉」号を頂く資格があるのか、とても不安に感じてしまいました。

一日も早く正しい呼吸法を会得し”自分の声を磨きたい“が私の切実な思いとなり努力目標となりました。

初伝審査に合格し雅号を拝受

鎌倉　和田　良泉

平成二十四年五月鎌倉教場に入会し、初段・二段と進級して今回初伝審査を受けさせて頂く事とし申込みました。

教場長から審査の際、詩を暗誦して吟じられるように、また指定された吟題のうちどれを選ぶか当日審査員の先生が指定されるので、二題とも確りと覚えるようにとの指導がありました。練習に励む以外ありません。しかし記憶力は低下し、なかなか頭の中に定着しません。でも、この間一生懸命練習に励み、教場長はじめ諸先生方のご指導を頂いて詩も何とか暗誦出来るようになり当日を迎えることになりました。

吟題は「**武関に宿る**」にて受審いたしました。詩文なしで何とか詠うことが出来ましたが胸の高鳴りは暫くおさまりませんでした。終えたあと秋山精正先生に講評と指導を頂きました。先生は詩をよく読むこと、内容をよく理解すること、母音をはっきりと、声を前に出すことなどご指摘され、ご自身が声を出されて指導下さいました。大変参考になり今後の練習に生かしたいと思います。

今年三月、私は八十歳になりました。この先、詩吟を続けて行けるか、また生きていく事などに不安を感じていましたが今回一緒に受審された桜ヶ丘教場の方達の中に九十歳の男性の方がおられました。この方に比べれば私は未だ若造か？

自分の不甲斐無さに気付かされました。継続は力なり、これからは気を持ち直して次の雅号を目指して参りたいと思いますので、今後とも宜しくお願い申し上げます。

越後駒　星野久風（清水）

本部役員人事（一月一日付）

広報部部長	八田　仁風
研修部副部長	山口　隆風
同　副部長	犬飼　尭山
事業部副部長	犬飼　勇山

在任中の役員

常任顧問	磯田　精信
審査管理部副部長	徳本　順風
婦人部副部長	菅原　龍琴
幼少年・寿栄部副部長	橋本　淳風
同　部員	中野　陽山
青年部　部員	石井　浩
指導本部員	磯田　精信
同	林　精吾
同	岩崎　精慶
同	鈴木　精成

吟剣詩舞道連盟コンクール
今年も入賞者多数

今年の吟詠コンクール区予選は二月二十一日（日）の品川区に四十五名、三月二十六日（土）の港区に七十八名、計一二三名と最多出場者を記録。入賞者も五十一名とこれまでの最大数でした。

上位入賞者の三十三名が五月の東京都大会に駒を進める大健闘でした。

更に東日本大会では、後記の方々が見事な吟を披露されました。入賞の皆さんおめでとうございました。

【品川区】

一般一部　優勝　青山　昇平（新宿二）
七位　大和田久美子（新宿二）
一般二部　六位　中野　陽山（新　宿）
十五位　石坂　桂泉（新　宿）
優秀賞　松本　清徳（神　田）
同　小柴　藤泉（新　宿）
次点　大倉　明山（清　流）
一般三部　二位　加藤　有風（新　宿）
八位　森山　仙山（清　流）
九位　池田　康風（神　田）
十位　宇田川静泉（新宿三）
十一位　橋本　淳風（新　宿）
十二位　岡部　禎山（新宿二）
十三位　菅原　龍琴（清　流）
十五位　竹下　尽泉（用　賀）
十六位　宮川　丞山（神　田）
優秀賞　粕川　紘風（神　田）
優秀賞　小林　公風（志　茂）
同　濱口　顕山（新宿二）
同　入住　章山（新宿二）
同　手塚　勝山（新宿二）
同　奈良崎應山（新　宿）

【港区】

少年の部　優勝　小林　晴川（東陽町）
一般二部　優勝　片山　寿風（東陽町）
四位　大木　博（神楽坂）
五位　土居　佳代（東陽町）
六位　湯浅　和泉（中　野）
八位　小浦場　博（ハザマ）
九位　青木　恭山（草　加）
十位　小梶　清司（新　陵）
十一位　伊藤　環山（ハザマ）
入賞　石母田敏江（丸の内）
同　下條　信泉（丸の内）
同　脇阪　守（東陽町）
一般三部　優勝　田尻　映山（丸の内）
三位　宮野　幸泉（東陽町）
四位　中内　博山（ハザマ）
五位　二反田奉泉（生　田）
六位　柴田　豊彦（新　陵）
七位　小山　洋泉（丸の内）
八位　犬飼　勇山（ハザマ）
九位　鎌田　秋泉（丸の内）
十一位　塩月　崇泉（調　布）
十三位　蒐場　一山（丸の内）
十五位　中島　義泉（丸の内）
入賞　松尾　宝山（ハザマ）
同　櫻田　謙泉（中　野）
同　望月　輝山（清　水）
同　吉田　紀泉（日暮里）
同　中川　寿一（新　陵）
同　滝沢　春泉（ハザマ）

【東京都大会】

少年の部　努力奨励賞　小林　晴川
一般二部　入賞　片山　寿風
一般三部　入賞　中内　博山
努力奨励賞　宮川　丞山
同　宮野　幸泉

※入賞の二方は七月の東日本大会に出場します。

「みそっかす」

新宿第二　青山　昇平

まだ詩吟の「し」の字も知らないずっとずっと昔、ようやく小学校の「し」の字くらいを知り初めし頃の話。近所の友達は年上だらけで、私はそのお尻にくっついては邪魔にされてばかりいました。つまり、私はただの「みそっかす」でした。

詩吟を始めた一年半前、私の第二期「みそっかす」時代が幕を開けました。あの頃と同様、今度は「詩吟」のお尻にくっついて、ちょろちょろするようになったのです。

そんな「みそっかす」たる私が品川区のコンクールに出場し、一体何がどうしたものか「一部優勝」といった過分なる栄誉を賜りました。私は「みそっかす」を晴れて返上し、対等に遊んでもらえ

るような「詩吟」の「お友達」になれたのでしょうか？詩吟の「し」の字くらいは知れたのでしょうか？それぱかりは分かりません。しかし、どれだけ邪魔にされようと「詩吟」にはこれから先も一緒に遊んで貰うつもりです。ずっと仲良くして下さいな。

それこそ、私が寝たきりになり、しびんの「し」の字を知る頃まで、ね。

詩吟コンクールに参加して

東陽町　土居　佳代

去る三月二十六日、港区吟詠コンクールに出場させていただき、第二部入賞・五位と思いもしない嬉しい結果に感激しているところです。

七―八年前まで関西の方に住んでいた私には言葉の一つ一つの発音やアクセントがなかなか飲み込めず、リズムもつかめず難しい事ばかりでございました。磯田先生、岩崎先生、花山先生方の丁寧なご指導、教場の皆様方の適切なアドバイスに励まされ、続けてくることができました。また、今回の出場では舞台上での姿勢や所作、そして地理にうとい私をいつも親身になって気にかけて下さった先輩の方々に大変お世話になり感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。これからも楽しみながら長く続けていけたらな、と思っています。

港区吟詠コンクール初入賞

新陵　柴田　豊彦

港区吟詠コンクールには昨年初めて「絶句」で挑戦。絶句することへの恐怖が頭をよぎり、ただ吟じ終えただけの結果は言わずもがな、その他大勢の一人に止まる。

その時感じた事の一つが、自分としては素晴らしいと評価した人の吟が、それ程評価しなかった人よりも下位の評価となった例が何例かあり、このギャップは何なのであろうかという事でした。評価基準としては、吟詠態度に始まり、優れた吟声や発音・発声の正しさ、更には詩心の理解度等があり、これ等をベースに経験豊富な諸先生が評価されるのですから、直感的に「心に響く吟」こそを最も良しとする私の単純な評価法とでは異なるのは当然の事と些か不満を残しながらも納得したものでした。

今回の挑戦では、大の苦手のアクセントにも気を払い、私としてはむしろ好むところでもある「わたり」を何度となく注意され、その是正に努めたことが評価アップに繋がったものと理解しております。熱意溢れる鈴木会長直々のご指導、ハザマ教場及び新陵教場の諸先輩や同胞からの温かい助言あっての入賞と心より御礼申し上げる次第です。

今後共、「心に響く吟」をモットーに吟の向上を目指すと共に、自らの楽しみと致していきたく思っております。宜しくお願い致します。

六年生の初入賞

丸の内支部　小山　洋泉

想定外のびっくりぽんで、ジェジェジェーと流行り言葉のオンパレード、更に昔の「びっくりしたな～モー」も飛び込んできた初入賞でした。

まぐれ当たりとはいえ今回なぜ引っ掛ったのか・・・。先ず思い当たるのは杖の効果です。吟詠中、手や体が大きく動く悪癖を常に指摘されながら中々直らない、直せない。そこで杖を舞台に持ちこみ、それを両手で確り握って吟じたらどうかと思いやってみました。

これが効果的でした。動きは大分抑えられ、脊筋も幾分伸び、吟に集中できた 気がします。

次に、今大会一般三部優勝の田尻映山さんと練習室で偶然二人きりになり、周りに気兼ねすることなく彼女のコンダクターで一吟復習してもらい、気分良く本番に臨めた事です。田尻さん有難うございました。

岳精流日本吟院に入会して満六年です。やっと入賞出来ました。これも教場の岩崎先生、山口先生、八田先生から賜りましたご辛抱強いご指導とお世話のお蔭と厚くお礼申し上げます。また 鈴木会長はじめ諸先生のご教授、そして教場の皆様方のご厚誼に深く感謝申し上げます。

これからも吟楽、健吟をモットーにして参りますので宜しくお願い致します。

私とコンクール

ハザマ支部　犬飼　勇山

岳精会に入会して八年半になります。入会三年目から毎年コンクールに出る様にしていますが、名前を呼ばれたのは今年が初めてです。とても嬉しく、来年も呼ばれるようにするにはどうしたらよいか考えてみました。

今まで色々な研修会や勉強会に参加し、その中で教えて頂いた基本を纏めてみると「声は大きく、正しいアクセントで、母音の口をはっきり区別し、喉でなく腹からドンと発声・・・」というものでした。確かに小さい声で、橋が箸に、星が足に聞こえるのでは、詩心どころか何を言っているのかも分らなくなってしまいます。

それでも場所や状況が整えば、聞こえるのは日本語ですから何とか分かってもらえるものです。しかしコンクールの審査では、詩文を見ながら間違いを探すのですから、分かってもらおうと期待する方に無理があります。そんな中に光明が見えて来ています。それは三年前から始めた漢詩の勉強です。作者がどんな気持ちで、起承転結の四句を組立て、その中で何を言いたかったのか？

自分で漢詩を作るようになって、何となくその辺が判る様になってきたみたいです。暗譜がし易くなってきたのもその辺にあるのかも知れません…？

漢詩作りを通して詩心・詩情の表現が少しでも吟に現れてくれて、来年も名前が呼ばれるのであれば、こんな嬉しいことは有りません。

港区コンクール入賞と吟への想い

新陵　小梶　清司

二回目のコンクール挑戦で何とか入賞の栄誉に浴せたことはラッキー以外の何物でもありませんが、吟歴三年という一つの区切りの年に何とか形に残る成果を残せたことは望外の幸せです。

これも、鈴木会長の日頃の熱血指導のお蔭であることは言うまでもありませんが、親教場の先生方や我が新陵教場の素晴らしい吟友仲間達、更には教場外で普段自分に格好の練習空間を提供してくれる我が愛車のお蔭と心から感謝しています。

仕事でも遊びでも始めて三年も経つと、そろそろ飽きが来るのが常ですが、この世界は例外で何故か無意識のうちに奥へ奥へと引きずり込まれて行く自分が不思議でなりません。生来運動好きの自分が周囲に気兼ねせず発声することで肉体的・精神的な爽快感を覚え始めていると言えなくもありませんが、松下村塾よろしく同好の士が一つの屋根の下で机を並べ、古今の偉大な詩人や俳人達と親しく会話が出来ることへの喜びを今更ながら噛みしめている故かも知れません。

引き続き明日に向かって精進したく思いますので宜しくお願いします。

人生いろいろ

調布　塩月　崇泉

私には少しばかり自慢出来る趣味として四十年近く続けている園芸がある。切っ掛けは、仕事のお礼に伺ったある豪農家のご隠居さんに頂いた五鉢のサツキからである。毎年美しく咲かせ、愛でて楽しむノウハウをその都度教えて頂き、忠実に積み重ねる度に時が過ぎ、その成果を実感しつつ五鉢から数多くの花、木、ランが十鉢、百鉢、二百鉢と増え続け今に至っている。

六十八歳の折り、第二の趣味として亡き父に勧められた詩吟を始める事とした。早いもので三年半が過ぎそれなりに良さが理解出来る様になりかけた昨年暮れにコンクールに出場したらとの強いお誘いを受け、多少の興味と武者修行のつもりもあり、挑戦する事となった。

あまり練習する機会もなく時間だけ過ぎてしまいコンクール当日になってしまった。失う物は何も無い小生にとって二日前に教場で特訓を受けた事を頭に思い浮かべ乍ら舞台に上った。大きく口を開き腹から声を出して吟じ切る事が舞台での二分間でした。席に戻ったら仲間から「良い出来だったヨ」と評価を受け、これで終ったなと一安心した折りに結果発表があり、十一位の入賞が判明して一番驚いたのは私自身でした。

昨年九月に俳句研修会にも入り、六十歳定年時

に息子から「人生これからが楽しい」の額縁とそのラベルのついた特別仕立の祝酒を贈られ、私なりに受け止め、自慢出来る趣味を育てていければと思っている今日この頃です。

コンクールで入賞出来た事は次にステップアップする為に私の趣味の証としたいと思っています。私の好きな言葉「人生いろいろ」・・・趣味を育てていく中でそれを感じています。

三度目の正直

丸の内支部　中島　義泉

今回、三回目のチャレンジで初入賞を果たし、感無量です。千代田岳精会の二十五周年の記念大会で詩吟に魅了されて以来〝いつの日か人に感動を与えられる詩吟〟を目標とし、その一助としてコンクールに挑戦してきました。まだまだコンクールの雰囲気に飲まれて、詩吟に集中することが出来ず、人を感動させる詩吟には程遠いものがありますが、入賞を契機に所期の目標である〝人を感動させる詩吟〟に少しでも近付ける様に更なる精進を決意しています。

最後になりましたが、コンクール参加にあたって、懇切丁寧にご指導頂いた岩崎先生はじめ丸の内教場の皆さんに心から感謝いたします。

吟詠コンクール初入賞

日暮里　吉田　紀泉

田尻映山先輩に紹介され、始めた吟、何年か経つうちに奥深さと難しさが加わり、やめたくなる事もありましたが地方に在住する従姉妹が何十年も（流派は別）続けていることを電話で知り、それなら私も入賞出来たのを機にちょっぴり意欲も湧いてきたところです。そこで何時か会った折、お互いに吟じ合えればなと密かに楽しみにしています。

又、作者の気持ちに少しでも近づければと思い、漢詩の勉強を始めました。日頃ご指導頂いている岩崎先生、山口先生には感謝申し上げます。これからも吟友の皆様と教室の勉強の後のお茶会も楽しみながら参加したいと思っています。有難うございました。

岳精流日本吟院
全国吟詠コンクール大会

総本部で二年に一度開催されている全国吟詠コンクール大会が三月二十日（日）に「かわさき保育会館」で開催され、全国から幼年の部十六名、少年の部六名、青年の部四名、寿栄の部二十四名、一般の部六十九名、計百十九名の選手が集い優勝を目指して出場した。千代田も各教場から選ばれた十一名が挑戦したが、流石にレベルが高く激しい接戦のなか、寿栄の部出場の平井茂行氏（神田）が見事三位の栄誉を獲得した。

このような大会は、本部と地元会・支部が相当の役割を担当して運営されるが、千代田はコンクールの核である集計係を犬飼事業部門リーダーの下、武蔵岳精会と共に担当しパソコン集計で立派に務めた。

岳精流全国コンクール大会に入賞

神田　平井　茂行

まさに幸運に恵まれ、寿栄の部で三位に入賞させて頂きました。最終的には運が良かったからということですが、幸運を呼び込める様に一所懸命にご指導下さった岩崎精慶先生、鈴木会長、池田教場長に厚くお礼を申し上げますと共に励まし

て下さり、声援して下さった諸先生と皆様に同じく厚くお礼を申し上げます。

直接ご指導下さいました岩崎先生、鈴木会長、池田教場長は私の、特に弱点であります「ゆり止めの甘さ」「山の下りを引張り過ぎ」を繰り返しご注意頂きました。お陰様で本番でかなり是正でき良い結果に結びついたと思います。

参考までに勝因と考えられるものを箇条書きにさせて頂きます。

一、繰り返しになりますが、直接ご指導下さいました三先生が弱点を集中的に直して下さったこと。

一、吟歴・実力の点から、節調が難しくまた詩情表現の難しい吟は避けたこと。

一、節調の易しい、詩情表現というよりも力強く勢いをつけて吟ずれば良い「**名槍日本号**」を選んだこと。伴奏曲も瞬間的に十一曲目を選び、先生方から吟に合った良い伴奏曲を選んだとお誉めの言葉を頂きました。選吟、選曲に成功したと思います。

吟剣詩舞道の品川区連予選では絶句し失格いたしましたので、無事吟じ切ることをまず考え、出場いたしましたが、予期せぬご褒美を頂き、一矢報いた感もあり嬉しくホッといたしました。

第四十八回全国剣詩舞道連盟 武道館合吟コンクール大会

今年は十月二十九・三十日に開催されますが、本部男女チームが参加することとなり、千代田からも多数の出場が要請されました。

○男子

吟題「**後夜仏法僧鳥を聞く**」空海　本数　三本

○女子

吟題「**菊花**」　白居易　本数　八本

近く本部でそれぞれ合同練習が始まります。昨年、入賞を逸してストレスを抱えたまま年を越した男子の皆さんの健吟を期待します。

創立三十周年記念吟道大会 順調に準備が進められています

徳本順風委員長のもと毎月一回の実行委員会に加えて、各委員会はそれぞれ独自に会合を開き順調に進められています。明治安田生命ビル九階の元食堂はいつもどのチームかが打合せをしている姿があり、力を合わせて是非成功をとの熱気が伝わってきます。

【新会員紹介】

◇丸の内支部教場

鈴木　恵子さん（三月入会）

明治生命のＯＧですが、紹介者の古屋利山さんとはバスの中で隣に座ったと言う面白いご縁。来てみると昔仕事でお世話になった方々でよく知っている先輩会員が何人もいて、何か繋がるものがあったのかと思っています。

岡本　英勝氏（四月入会）

現役引退後、始めたのは中国語のみで何か物足りなさを感じていた日々、詩吟を拝聴する機会を得ました。特にご年配の方の力強くメリハリの効いた吟じ方には深く感銘を受け、声を出す重要さを知り、即入会を決意しました。所沢在住、今年七五歳の新人です。宜しくお願い申し上げます。

座間　文子さん（五月入会）

嘗ての上司である中島義泉氏から、生涯学習の趣味にと詩吟を勧められました。詩吟は腹式呼吸により心肺機能を高め、心身の健康増進にも役立つことが解りました。先生方の厳しくも熱意のこもったご指導に感銘を受け、本格的に学んでみようと決心しました。

◇東陽町支部教場

小川　敏和氏（二月入会）

高校の同窓生から詩吟の話を聞き、私の滑舌

も多少良くなるかも、と入会させて頂きました。入会して四か月・・詩吟の奥深さ、難しさを実感するとともに、高音が出ずに四苦八苦しておりますが、焦らず確りと練習していきたいと思います。

鎌手　麗子さん（二月入会）

今年の二月、鵜飼輝山さんの紹介で入会させて頂きました鎌手です。昔、詩吟を学んだと話したことで健康の為にまた始めては、とのお誘いでした。初めは発声が出来るか心配でしたが、真剣にご指導下さる先生方、懸命に学んでいる皆さまに感動し、私も頑張りたいです。

伊藤　彰一氏（二月入会）

退職後、健康のため大きな声で歌う趣味を探していた。カラオケから謡まで考えたが、なかなか思い切れなかった。前職のＯＢ飲み会で宮野先輩の吟をお聴きし、先輩に背中を押され飛び込むことにした。早く真なるものに触れるように吟じていきたい。

藤本　紘氏（二月入会）

友人の脇阪さんの勧めで入会し、宮野教場長の熱意溢れるご指導の下、菊池・花山両先生のコンダクターに支えられ、磯田先生に詩吟の心を、また岩崎先生に吟詠の醍醐味を教わり味わう日々です。

◇ハザマ支部生田教場

石井　哲彦氏（二月入会）

入会してどうやったら良いのか分らず内心オロオロいたしました。しかしその中で皆様の吟を聞いているうちに、目の前に情景が浮かんで参りました。心で吟ずるうちに私の心にも反映したものと思います。諸先輩を見習い努力して参ります。宜しくお願いいたします。

◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇

訃報記事

◆渡邉　兵三氏（新宿支部）

平成二十八年一月十七日ご逝去されました。
享年六十六歳　ご冥福をお祈りいたします。

◆功刀　蒼風氏（ハザマ支部）

平成二十八年二月二十八日ご逝去されました。
享年八十七歳　ご冥福をお祈りいたします。

◆高橋　良治氏（鎌倉教場）

平成二十八年三月二十日ご逝去されました。
享年七十歳　ご冥福をお祈りいたします。

編集後記

熊本で加藤清正が築城した難攻不落の名城・熊本城も大きく壊れるほどの大地震が続発し、何時収まるか予測のつかない余震に被災者の心労が続きました。どうやら収まりつつあるようですが、幾つかの市町で役所も大きな被害を受けて被災者の手続き業務が滞り、復興には時間が掛かりそうな状況です。これからボランティアなど息の長い支援が必要になります。岳精流として義援金を募りお届けすることになり千代田も教場毎に済ませていますが、少しでも詩吟の同好の方々へ届くような送り方が出来るか悩ましいところのようです。

「吟友の輪」プロジェクトが一年のインターバルを経て再スタート、今回は教場新設と指導者育成を柱として、全国の空白地域の開拓をとりあげます。皆さんの郷里、在職中の任地など思い出してみましょう。特に中国、四国は手付かずの状態で全国に二十三府県あります。

今年から総本部の広報誌「龍吟」の編集責任者も担当することになりました。千代田三十周年記念特別号も九月発行予定で動き出しており、五月二十六日には十人の参加を得て座談会「輝く千代田　三十誇りを持って明日へ！」を開催しました。教場紹介、会員の集合写真未提出の所お急ぎ下さい。従って次の五十五号は一月となります。

現在合わせて三つの編集を同時進行で取り組ん

でいますが、傘寿を過ぎ処理能力が低下して、ミスを頻繁に出して余計な手間をかけています。不手際の段はご容赦ください。

（八田　仁風）